

山中漆器産業技術センターの平成18年度管理状況

施設所管課	商工労働部経営支援課
指定管理者	(財)山中漆器産業技術センター 理事長 高本 隆
指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日

(1) 管理業務の実施状況

業務内容 (協定・条例に規定)	具体的な業務(仕様書、事業計画)の実施状況 (不十分な場合、その理由、指摘事項を記入)
「挽物轆轤技術」の後継者育成	挽物轆轤技術研修に関する業務 轆轤研修生数 在校生数 14名(休学者1名除) 入学者数 11名 卒業生数 3名 講義時間 基礎コース 1学年 1,520時間 2学年 1,504時間 専門コース 1学年 604時間 専門コース 2学年 休講
山中漆器産業に従事する人たちが利用しやすい施設の管理運営	施設及び開放機器の提供 施設、開放機器の使用(使用件数52回) 開放時間の延長 利便向上のため、夜9時まで延長開放を実施。 施設の情報提供、広報、広告 ホームページを運営 広報誌「センターだより」の配付(延1,000部) 自主事業の企画・実施 各種講座の開設、実施 ・漆芸教室受講生 延513名 ・パソコン教室受講生 延18名 ・ワーキング研修 延65名 関係機関との連携・協力の推進 ・山中漆器連合協同組合が取り組む産業振興についてサポートを行う。 ・石川県工業試験場との連携し、組合や従事者に技術提供。 その他特記事項 ・利用者への図書の貸出
伝統工芸に関心のある県民(来県者を含む)が利用しやすい施設管理運営	施設の使用受付、案内等の接遇向上 ・従事員全員に対し挨拶等接遇マナーを徹底 自主事業の企画・実施 県民への普及事業 ・見学者への説明 1,034名 ・体験研修の実施 226名

収入の確保と経費の節減、適切な維持管理	授業料等の徴収に係る業務 授業料 2,731,500円 未納なし 施設・開放機器使用料 38,470円 未納なし 効率的な維持管理 ・清掃委託 週1回の館内清掃 ・保守点検委託(消防設備、エレベータ、空調設備) ・警備委託 夜間の機械警備委託 ・小規模修繕 材料保管庫乾燥設備修繕 轆轤室保管棚修繕
(その他知事が必要と認める業務)	緊急時の対応・安全管理などの危機管理 ・緊急連絡網の策定

(2) 施設の利用状況

利用指標((設定している場合)利用人数、稼働率などの数値目標)

指標	H17年度 (参考)	H18年度	前年度比	増減理由
研修生数(人)	15人	14人	93%	休学による減
利用者数(人)	1,973人	1,971人	99%	ほぼ前年並みの利用状況

使用許可等の状況

	許可件数	不許可件数	不許可理由
施設使用	7件	0	
開放機器使用	45件	0	

(3) 使用料の収入実績

利用料金の収入及び減免の状況

	収入額	減免額	減免理由
施設使用	20,370円	0円	
開放機器使用	18,100円	0円	

(4) 収支決算

(千円)

収入		支出	
管理料	33,551	人件費	12,212
授業料収入	2,732	光熱水費	2,692
使用料収入	38	修繕費	407
		その他の管理費	4,456
		轆轤研修事業費	16,554
合計	36,321	合計	36,321
収支差額	0		

(5) その他、県が必要と認める事項 (管理の実態を把握するために必要な事項)
利用者アンケート結果、評価、苦情、要望

年月	内容	対応
	なし	

事故、故障等

年月	内容	対応
	なし	

その他報告事項など

特になし

(6) 評価結果

評価項目	結果	所見 (工夫、改善点)
サービスの維持・向上に向けた取組みが行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漆器に関する様々なスペシャリストを講師として招き、研修生に対して高いレベルの研修を行った。特に人間国宝である川北良造氏に対しては、指定管理者制度導入後も一貫した指導をお願いしており、週に数回の技術指導を実施している。 ・研修生をはじめ、産地の漆器関係者に対して、山中漆器産業の育成及び支援を行うための、ワーキング研修等の自主研修を積極的に行った。 ・当センター内に山中漆器を紹介した展示コーナーを設けるなど、県民に対して施設を広く公開している。
利用促進に向けた取組みが行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内書は県内の実業高校へ持参すると共に、研修内容について詳細な説明を行っている。また、高校の卒業生予定者を対象にした体験研修を実施している。 ・学会等に職員が出席した際は、同席している全国の美大関係者に対して当センターのPRを行い、美大生への入学の斡旋を依頼している。 ・入学に関する問い合わせを受けた場合は、必ず事前に当センターで体験を行うよう依頼している。入学前に「漆器づくり」という仕事の厳しさを実感してもらうことで、質の高い研修生を集めることができている。 ・加賀市や同商工会議所、漆器店などに広報誌を送付するなど、PRを行うことにより機器の利用を促している。また、地元の漆器事業者が施設・開放機器をより利用しやすくなるように、研修所の利用時間を延長し、終了時間を午後5時から午後9時とした。

施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	B	・挽物轆轤研修事業を円滑に進めるために、施設等が故障した場合は、速やかに修繕を行っている。
緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。	B	・非常時の連絡体制が定められるなどの、安全対策がとられている。
適切な管理運営を行う組織・体制か。	B	・ノウハウをもった職員を適切に配置することで、漆器業者の相談や見学・体験への対応といった点を含め、良好な管理体制をとっている。
その他、必要と認める事項（例：苦情処理、個人情報保護）	B	・研修生、相談者の個人情報保護に留意している。
総合評価	B	・山中漆器産業の育成及び支援を行うための積極的な管理運営がなされているほか、山中漆器に関心のある県民に対しての普及啓発にも尽力している。 今後も専門的な技術やノウハウを活かした管理運営を期待する。

評価基準

- A（優）：従前の管理水準や仕様書等に定める水準を上回っている
 B（良）：従前の管理水準や仕様書等に定める水準を十分に実施している
 C（可）：従前の管理水準や仕様書等に定める水準を概ね実施しているが、一部改善を期待する部分がある
 D（不可）：従前の管理水準や仕様書等に定める水準を下回っている

総合評価

- A（優）：適正であり、優れた実績をあげている
 B（良）：適正である
 C（可）：概ね適正であるが、一部改善を期待する
 D（不可）：改善が必要である

（7）助言・指摘事項

特になし